

奈良県ボランティアだより

健康と笑顔でつなぐ 第56号!!

奈良県ボランティア連絡協議会機関紙

令和3年3月発行

会長挨拶

令和2年6月に奈良県ボランティア連絡協議会会長を引き継ぎました、葛城市的橋本侑子でございます。よろしくお願い致します。

令和2年度は、コロナ禍のなかで多くの行事が中止となり、ボランティア活動を含む様々な活動が制限されました。マスクの着用、対面での人との距離が制限され、生活様式や働き方が大きく変わるなか、人とのつながり支え合うことの大切さを改めて感じました。

そのなかで、令和2年度ならボランティア研究集会を開催し、オンラインによる講演と、パネルディスカッションを行い、3地域の活動者の皆さまからコロナ禍での実践を聞かせていただきました。ホッコリとした楽しい雰囲気の、良い研究集会だったと思います。これからは、国民の皆さまにワクチンが行き渡り、皆さまがいきいきと楽しくボランティア活動ができる世の中になることを願っています。

奈良県ボランティア連絡協議会 会長 橋本侑子



「令和2年度ならボランティア研究集会」を開催しました



令和3年2月27日(土)県社会福祉総合センターで、「ならボランティア研究集会」を開催しました。感染症対策をとりながら、「withコロナ 今できること」をテーマに、人数も制限してコロナ禍で「できること・できる方法」について考える場として開催しました。

基調講演は「災害時における地元ボランティアの役割～令和2年7月豪雨から～」と題しJVOAD(NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)の千葉泰彦氏のリモートによる講演からスタートしました。

JVOADは、災害時に支援の「もれ・むら」をなくすためコーディネーションを行い、被災したすべての人が復興・復旧に向けて自立していくようにならにわたる支援をされています。災害時の支援では、ニーズを把握し、情報共有することが重要で、平時からの顔のみえる関係づくりが大切のことです。

コロナ禍での災害となった熊本の豪雨時には、熊本県内の人たちで支援するための工夫として、①県内からボランティアバスを運行し②コロナ・災害で生活が大変になった社会人・学生を有償ボランティアとして集め③NPO、企業との連携をつくっていったとのことです。地域のことをよく知っている人が口コミで情報を広げ、対応の幅が広がっていき、支援を必要とする人とつながっていったとのお話をしました。また平時から地域で活動するいろんな領域の人たちとのつながりができたことで、建設業者の人から重機を使ってのがれきや泥の撤去に支援が入ったりしたそうです。さらに、「要支援者の災害時の支援は、普段支援しているNPOと連携を図り、災害時特有の支援を作っていくことが重要だ」と話されました。体験から生まれた多岐にわたる支援のあり方を詳しく話してくださいました。

発災後、支援を受ける人の立場をしっかりと理解し、長い期間の支援が必要となる中でどうすれば支援ができるのか?を考え、地域の人で仲間の組織を作ることが重要で、尚かつ被災していない地域からの支援を受けて一人でも多くの人が助かるように努力することが大切だと強く感じました。

(報告／桜井市・北村)



令和2年度ならボランティア研究集会 開催報告

コロナ禍で活動が止まっている今、どのような活動が出来るのか、皆さん試行錯誤されていることでしょう。このような中で実践をされている3団体の活動報告を元に、日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター 客員研究所員 小木曾早苗先生をコーディネーターに迎え、「コロナ禍におけるボランティア活動」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



まず、香芝市のNPO法人T-seed の多田さんから、オンライン交流を取り入れた子供さん対象の活動が報告されました。自治会の子ども会が解散したことから、“母親として何かしなければ”が活動の発端となり、知り合いの保護者さん2人と活動をはじめられたそうです。コロナ禍で集う活動ができないなか、手作りマスクと共にフードバンクの食品を配布したり、絵本の貸出をされています。また不登校の児童の支援として学校以外の居場所づくりを目的とした陶芸や本づくり体験、里山遊びも回数を増やして行っています。

コロナ禍の中で特に力を入れているのがオンライン交流で、Zoom カフェを開いています。家庭に科学工作などのキットを送り、オンライン上で情報交換しながら作っています。また臨床心理士によるワークショップも行うなど、自宅にこもりがちな子供たちの心の発散としても良いツールになったとのことです。多田さんにとって「ボランティアとは、自分の喜びであり、見返りを求めるない」ともお話されていました。

小木曾先生からは、地域支援が広がり、不登校の児童に気配りしていることや、HP が充実されていることにも感動した、とのお声を頂いていました。



次に、平群町ボランティア連絡協議会より、竜田川ネットの森脇さん、堀田さんから「リーダーの役割が一段と重要」と題して報告がありました。

森脇さんが所属する活動の一つに、防災かまどベンチ実行委員会があり、平群町では15基を自治会の協力などで製作したそうです。しかし経年劣化のため補修も必要になり、その補修作業を実施したことや、また、町内の大規模清掃活動が中止となるなか、町内ボランティア9団体で、プリズムヘグリの構内・周辺の清掃を実施されたことを報告されました。取り組むなかで、コロナ禍での作業をどう進めるか、という事にリーダーとして役割が求められたと話されました。



そこで具体的な感染予防対策として作業のチェックリストを作りました。当然マスク着用、消毒アルコール、体温計の準備、密にならない作業工程などが入れられています。そして肝心なのが、このリストには平群町役場の関係部署へ事前説明に行くことをチェック項目に設けていることです。作業前と後に第三者のチェックを入れて安全を確保しています。良く考えられたチェックリストだと思います。

竜田川沿いの鯉のぼりの紹介もありました

小木曾先生も、第三者の目も加えたチェックリストに感心されると同時に、次の河合町の報告も合わせ、ボランティアグループの活動をお互いに見ることは非常に大事ですよとのお話もありました。



次に、河合町より“このような時にこそ必要な居場所づくりを”というカフェ豆山の活動について、長さん、樽野さんから報告されました。町の公共施設のなかで、今は閉鎖された障がい者自立支援の喫茶スペースが空いていることをもったいないと思い、何か出来ないかと民生委員や傾聴ボランティアなどにお声かけしたそうです。コーヒーや紅茶、ジュースをお出しし気軽に誰でもちょっと立ち寄れる場所を提供しようと2020年7月にオープンしました。「私にもできるなら…」、「ボランティアをやったことが無いけど…」、「来れる時だけでも良ければ…」など協力の輪が広がり、今では手伝っていただける方が30名にもなったそうです。

自宅で採れた野菜を低額で良いから販売してはと持参してくれる方もいるそうです。今ではシフォンケーキやクッキーも揃えているそうです。まだ立ち上げて間が無いので5名以上のお客様になると不揃いのカップでおもてなしします、と皆様の温かい笑いを誘っていました。

クッキー・シフォンケーキのテイクアウトも可能で、コーヒーも大変美味しいので馬見丘陵公園にお出かけの際はちょっと足を延してみてくださいとのことでした。



このコロナ禍での立ち上げということに感銘しますが、行動力にも感動します。
まだまだ目の付けどころを変えれば活動手段はあるものだと気付かされました。



最後に小木曾先生から「豊かな生をどう生きるか－地域の担い手として自分を活かす－」と題してのお話がありました。

「○○に所属する私」「○○に関心のある私」のみならず、「地域に住む私」に何ができるかを考えよう。多様な住民がつながることで、意見やアイデアが生まれて大きな力となる。問われているのは「誰もが主役」の地域力であり、「誰かがやってくれる」のではなく「自分のため」「地域のため」が心豊かに安心して暮らせる地域づくりであるとのお話です。

この研究集会も、今日の参加者のなかから、来年は自分が発表したいという思いを持たれたら成功である、とのお話でした。

小木曾先生は、今回の研究集会のコーディネーターを務めるに当たり、前日に平群町・河合町の報告団体を訪れて取材をされていました。

このような責任感・情熱・行動力を發揮された上でのお話なので、お話に一層感銘を受けました。

(報告／上牧町・渡邊)

～参加者からのメッセージや感想(参加者アンケート等より一部抜粋)～

活動を、つながりを求めているのは、みんな一緒です。大変な時ではあります BUT 共に乗り越えていきましょう。

注意しながら、皆様と会いたい。
みんな一人ではない。自分だけではない、みんな同じ思い。

コロナ禍でも出来ることをみんなで考え実行しましょう。三密を避けたらできますよ。

やはりこういった講義、交流の会は大切だと思います。自分では想像もできない活動を沢山の方々がアイデアを出し合って実践されている。

“今できることは何か”からはじまる活動の例に感動しました。

最後の登壇の方同士のエールの送り合いがとても素敵でした。
コロナ禍でも工夫次第でつながりができると感じました。

大淀町食生活改善推進員協議会

令和2年11月20日、大淀町役場にて、協議会メンバーの方に、今までの活動状況を取材させていただきました。

大淀町食生活改善推進員協議会は、大淀町中央公民館にて発足後、平成元年に大淀町保健センターへと事務局が移り、食を通して「私たちの健康は私たちの手で」をキャッチフレーズに、30年以上活動を続けておられます。

会に参加することで「色々な人と出会うことができた」、「大好きな食を通して学ぶことがたくさんあった」、「町の他の団体との交流も楽しめた」といった声、また、「直接口から食べることはとても大切」、「鰯と昆布のダシをきちんととりましょう」、「塩分のとり過ぎはいけませんよ」といったアドバイス、「20~30年前は個人の食育だったのが、今は地域社会全体ですすめる食育になってきている」といった食を取り巻く環境の変化に関するお話を聞かせていただきました。

会では、ここ5年ほど、地元の高校の食を専攻する学生さんたちを対象に、若い世代への食に関する普及啓発活動を行ったり、独自に食育のDVDを作成されています。DVDは、小学生向け、町民向けと2種類作られており、それぞれ学校給食の時間、「大淀あらかしテレビ」にて放映されています。DVDを観させていただきましたが、どちらもテンポよく、観ているだけで食について楽しく学べて実践できる内容となっていました。皆さん生き生きと出演されていたのも大変印象に残っています。

大淀町では、梨、お茶、柿の葉寿司が特産品とのことですが、地産地消を大切に郷土料理を伝承していきたいとのことでした。1年間の養成講座を受けることで、会のメンバーとして活動できることですので、本会の活動に興味を持たれた方は、ぜひ一度参加されてみてはいかがでしょうか。



取材を終えて、皆さんの食に対する熱意、本当に大事なことだから伝えたいという想いを強く感じました。そして、色々な食育の方法があるのだなど教わるとともに、自身の食生活・食習慣を見直す素晴らしい機会をいただきました。大変貴重なお時間をありがとうございました。

(取材担当／橿原市・山田)



取材した日は、役場ロビーに食育掲示板を設置していました



食育DVDを鑑賞させていただきました

手話サークルさくら会 (桜井市)



令和3年2月13日(土)、桜井市中央公民館と市福祉センターを拠点に活動されている手話サークルさくら会の活動を見させていただきました。

まずははじめに、このたび手話サークルさくら会のみなさんが緑綬褒章を受けられ、本当におめでとうございます。そんな「さくら会」のメンバーさんと逢えるのを楽しみにしていました。

はじめての私にとっては、手話の難しさや大変な技術に驚きです。

楽しく勉強をしているだけでなく、耳の聞こえない人との交流を深め、手話を使ったコミュニケーションのスキルアップに努めておられます。特に災害時には、通訳者が到着するまでの間、地域の手話ができる人の協力が必要となるとのお話をでした。

インタビューでは、皆さんが手話を始めたきっかけを伺いました。

- ・子どものお友達のお母さんがろうであることを知り、お友達になりたいと思い学びはじめた
- ・ドラマを見て恋人がろうであり、その一生懸命伝えたいという思いに感動し私も何かお手伝いできればと思った
- ・フラダンスを習っているなかで、振付が手話と共に通していると思い勉強をはじめた

この日の活動は、4人1組で、手話が必要とされる場面を想定したロールプレイをされていました。

2組のロールプレイを見て、ろうの方はいかに内容を伝えたいか、ろうの方の要望に応えられるか、手話を通してお互いの心が通えば笑顔があふれ、私たちも嬉しい気持ちになりました。

さくら会は1974年に設立され、まもなく50周年を迎えられます。これからも頼ってくださる人のため益々がんばってほしいと願います。

ところで皆さん、ろうの方が車を運転されているのを見かけられたことはありますか?

また、車に貼ってあるマークは何の形でしょう? 答えは、蝶々マークです(聴覚障害者標識)



直接関わっていない人が多いと思いますが、勉強することにより色々な場面で心を寄り添えると思います。運転されている人(マーク)を見かけた時はやさしく見守ってほしいですね。

- | | | |
|-----|--|--|
| クイズ | <ul style="list-style-type: none"> ●手話は世界共通ですか? ●ろうの人達のオリンピックはありますか? | いいえ、地域によって国によって異なります。
はい、4年に1回聞こえない人のオリンピック
「デフリンピック」があります |
|-----|--|--|

このように、世界のあらゆる所で活動の場があることは、手話を通して自分の教養・文化の向上と共に、一人一人が社会人として今後も心豊かに視野を広めてほしいと思います。

(取材担当／大淀町・仲西)



取材メンバーとともに



旅行の予約をする場面設定でロールプレイ

『ボランティア学習会』に参加して

令和3年2月24日（水）、県総合ボランティアセンターにて開催したボランティア学習会に参加しました。

この日は、葛城市ボランティアふたば会の皆さんとの指導で布マスク作りを体験しました。

コロナ禍において、何枚あってもうれしい必需品です。

皆さん楽しく針を進め、1時間余りで完成し、出来映えを見せ合いながら喜び、写真に収りました。

ありがとうございました。

（報告／大淀町・仲西）



マスクをしながらマスク作り



とても春らしい素敵なマスクが完成しました!

「令和2年度総会」開催報告

新型コロナウイルスの感染拡大防止の対応として、今年度の総会は幹事による書面決議による開催となりました。役員改選では、6年の長きに渡り、県ボ連を支えてくださった早瀬前会長交代の年に、会員の皆さんとお会いできなかつたことは、とても残念でしたが、新会長のもと、ますます元気に、県ボ連活動を推進してまいります。

<新役員紹介>

会長	橋本侑子	(葛城市)
副会長	山田祐己	(橿原市)
副会長	北村嘉津代	(桜井市)
副会長	山田三千子	(生駒郡平群町)
書記	仲西愛子	(吉野郡大淀町)
会計	平野淑子	(磯城郡田原本町)
監事	伊藤美代子	(大和郡山市)
監事	樽野ミネ子	(北葛城郡河合町)

報告

本会会員が、令和2年度の下記表彰を受けました。

●緑綬褒章

団体 手話サークルさくら会(桜井市)

●社会福祉功労者に対する厚生労働大臣表彰

個人 橋本侑子さん(葛城市)

団体 ボランティアグループぶりっじ(田原本町)

おめでとうございます。

編集後記

3月に入り街々にお雛様が飾られ、ひな祭りの音楽が流れる
と急に春めいてまいりました。



2020年度は全世界が新型コロナウイルスに侵され、新生活様式をしいられました。県ボ連もいろいろな行事が中止され、寂しい一年となりました。しかし、2021年度はコロナも収束し以前の熱気と活動的な県ボ連に復活することを期待します。

皆さん頑張りましょう!! (嘉)

発行者 奈良県ボランティア連絡協議会 〒634-0061奈良県橿原市大久保町320-11 県社会福祉総合センター内

TEL : 0744-29-0155 FAX:0744-26-0234

編集者 会長 橋本 侑子 ・ 奈良県ボランティアだより編集委員会